

# じっ きん み き へ い 十 錦 神 酒 瓶

●所在地／稲荷本村 伊豫稲荷神社

●所有者／伊豫稲荷神社

これは郡中十錦という焼き物で、小谷屋友九郎（乾斎・坤斎）の作品中の逸品である。

郡中十錦というのは中国製上絵の十錦手（にしきでとは、赤・緑・黄・紫・青などの上絵具を施した陶磁器のこと）を模したもので、磁器釉表に青・黄・緑・赤桃・褐・薄コバルト青・白盛・脂・臙黒・金彩の上絵具を厚く塗り、その上に錐花（唐草などの釘ぼり）をして焼いたものである。その素地は砥部産で、後には多治見や九州産の物を使った。



この郡中十錦は、寛政年間（1789～1800）に郡中の灘町で薬種商を営んでいた小谷屋利八郎の弟の友九郎が始めたものである。友九郎は、はじめ薬焼をしていたが後に十錦焼を苦心のすえ創始した。人びとの求めに応じて製作したが、その作品は精巧を極め、現在でも高く評価されている作品を多く残している。この十錦神酒瓶も乾斎の秀作として奉納されたものと思われる。